

日本都市社会学会ニュース

NO. 66 (2003.10.25)

発行：日本都市社会学会
事務局：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部社会学科後藤研究室内
E Mail：UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp
FAX：(03)5317-9423
(郵便振替口座：00140-4-703976)

会長挨拶

日本都市社会学会会長 松本 康

森岡清志前会長による改革路線の意図せざる帰結として、思いがけず会長の大役を仰せつかることになりました。改革の真価が問われるのはこれからです。今後は、学会運営に関して改革の大なたを振るうというよりは、事務局移転、学会誌製作の外注化などともなう、執行・運用面での調整が課題になるのではないかと思います。新規約による理事全員交替のなかで、ひとり残された形になりましたが、幸いにも新理事会のメンバーは、これまでさまざまなかたちで学会運営を支えてこられたベテラン揃いで、編集委員、企画委員も有能な方ばかりですので、会長の力量にかかわらず、学会運営そのものは円滑に進むものと考えております。

歴代の会長諸先生にくらべて、明らかに軽量級ですが、選挙で選ばれてしまったのだから致し方ありません。この際、むだな抵抗はやめて波間に浮かぶ木の葉のように、激動期を乗り切れれば...というのが現在の率直な心境です。と申しましても、無責任にふらふらというつもりはありません。制度としての学問が大転換期を迎えるなか、知的遺産の継承と革新はいかにあるべきかを考えつつ、会員の皆様の叢智を結集しながら、慎重かつ大胆に歩んでいきたいと思っております。

以上、はなはだ簡単ではございますが就任のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

第21回大会の報告

日本都市社会学会第21回大会が、9月6日(土)と7日(日)の両日にわたって、けやき並木の美しい成蹊大学で開かれました。9月に入ってから夏がやってきたような残暑の厳しい両日でしたが、103名(内92名が会員)の参加者が集い、研究報告を行うとともに、発表をめぐる白熱した討論がくり広げられました。また、懇親会では、例年より若手の参加者が目立ったように感じましたが、世代内、世代間の交流の輪ができ、話に花が咲きました。まずは、大会開催校のご配慮にお礼を申し上げたいと思っております。

さて、例年はテーマ部会とシンポジウムがそれぞれ開催されるのが一般的でしたが、今大会は、テーマ部会は開かれず、シンポジウムのみという部会構成でした。その理由は、自由報告の希望が多数(17本)あり、1日目の午後に自由報告の部会に当てたためでした。これに関しては、賛否両論あるかと思いますが、できるだけ参加者全員で、会員の研究をじっくり聞いて議論しようという学会発足当時の考え方が反映されて、私個人としては評価したいと思っております。それでも1日目の午後は、2部会が同時開催にならざるを得ず、どちらの報告にも興味があった私は、会場をいったりきたりという感じになってしまいました。まあこれは、いたしかたないことでしょう。これからも企画担当者を困らすような質の高い自由報告がどんどん生まれることを願っています。

また、シンポジウムは、このところ学会で問題になっている隣接領域との対話という観点を踏まえて、「都市と環境」をテーマに議論が交わされました。学会というそれ自体ある種閉鎖的な制度を、学会としての求心力を失わずに、どのように外部に開いていけるのか。今後、会員全員で考えていかねばならない課題だと思います。

(上智大学 園部雅久)

2003 年度総会の記録

総会は、大会1日目の9月6日(土)、下記の次第に沿って行われました。

1. 開会の辞(松本康常任理事)
2. 会長挨拶(森岡清志会長)
3. 開催校挨拶(成蹊大学 江上渉理事)
4. 座長推挙(青木秀夫会員を選出)

5. 報告

(1)2002 年度企画委員会報告

松本康常任理事より、2002 年度の企画委員会の活動などについて報告がありました。

(2)2002 年度編集委員会報告

谷富夫常任理事より、2002 年度の編集委員会の活動などについて報告がありました。

(3)その他

森岡清志会長より、日本学術会議会員推薦の件や『リーディングス 海外の都市社会学』(仮題)の経過などについて報告がありました。

6. 議事

(1)新入会員承認の件

町村敬志常任理事より、新入会員6名(会員異動欄に掲載)が紹介され、全員拍手をもって承認されました。

(2)2002 年度決算報告・監査報告承認の件

江上渉理事より、2002 年度決算報告(4 頁参照)について説明があり、ついで園部雅久監査より監査報告があり、異議なく承認されました。

(3)2003 年度予算案承認の件

江上渉理事より、2003 年度予算案(4 頁参照)について説明があり、異議なく承認されました。

(4)『日本都市社会学会年報』の編集・販売委託の件

谷富夫常任理事より、『日本都市社会学会年報』の版下作成から納品までの仕事をハーベスト社に業務委託することについて提案がなされ、異議なく承認されました(販売は従来どおり学会事務センターとなります)。

(5)第3回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)授与式

森岡清志会長より、第3回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の選考過程および結果が報告され、園部雅久著『現代大都市社会論 分極化する都市?』(東信堂、2001年)に同賞が授与されました。また、第一次選考を通過したのは、このほか、秋元律郎著『現代都市とエスニシティ』(早稲田大学出版部)、谷富夫編著『民族関係における結合と分離』(ミネルヴァ書房)の計3点でした。

なお、受賞者には会長より賞状と記念品が授与されました。

(6)役員選出の件

選挙管理委員の推挙

森岡清志会長より、中筋直哉会員、鈴木久美子会員、高畑幸会員、難波孝志会員、矢部拓也会員の5氏に選挙管理委員を委嘱するとともに、中筋会員に選挙管理委員会委員長を委嘱する旨提案があり、承認されました。

会長選挙

役員選出規程第1条に基づき投票が行われ、新会長が選出されました。投票結果は次の通りです。

松本 康	会員	18票
次点：町村 敬志	会員	9票

理事選挙（全国区、地方区）

役員選出規程第3条および第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区4名の新理事が選出されました。投票の結果は次の通りです。

全国区

玉野 和志	会員	26票
園部 雅久	会員	19票
有末 賢	会員	17票
渡戸 一郎	会員	16票
次点：田中 重好	会員	15票

地方区

北海道・東北地区

斎藤 吉雄	会員	3票
次点：なし		

関東地区

浦野 正樹	会員	12票
次点：江上 涉	会員	5票

中部・関西地区

田中 重好	会員	6票
次点：大谷 信介	会員	2票
次点：西山八重子	会員	2票

中国・四国・九州地区

稲月 正	会員	6票
次点：篠原 隆弘	会員	2票
次点：三隅 一人	会員	2票

監査選挙

役員選出規程第3条に基づき投票が行われ、新監査が選出されました。投票の結果は次の通りです。

江上 涉	会員	11票
篠原 隆弘	会員	5票
次点：青木 秀男	会員	3票

(7)次回大会の件

森岡清志会長より、来年度の第22回大会が大阪市立大学を会場として開催されることが報告され、承認されました。また、同大会開催校を代表して大阪市立大学・谷富夫常任理事より挨拶がありました。

(8)次期事務局について

森岡清志会長より、昨年度総会で承認されたとおり、今期の学会事務局を東京都立大学より日本大学に移転することが報告され、承認されました。また、新事務局を代表して日本大学・後藤範章会員より挨拶と事務局幹事を務める松橋達矢・楊盈璋(ヤ イガン)会員(日本大学大学院生)の紹介がありました。

7. 閉会の辞(町村敬志常任理事)

2002 年度決算報告および 2003 年度予算

2002 年度決算

<< 収入 >>

項目	予算	決算	備考
入会金	38,000	36,000	13人分
学会費	1,146,000	1,196,000	一般203人分 学生45人分
広告収入	60,000	70,000	
雑収入	20,000	43,483	預金利息、複写収入
年報販売	115,600	138,800	学会事務センター 総由50冊 直報販売17冊 会員誌販売26冊
繰越金	1,022,627	1,022,627	
計	2,402,227	2,506,910	

<< 支出 >>

項目	予算	決算	備考
消耗品費	50,000	32,963	文具、封筒等
通信費	250,000	206,260	
ニュース印刷費	80,000	66,885	350部×3回
年報印刷費	300,000	300,000	500部
報告要旨集印刷費	70,000	51,765	350部
大会開催費	120,000	120,000	
役員・委員会費	130,000	79,262	委員交通費を含む
事務局費	250,000	231,000	事務員手当 机代を含む
編集事務局費	150,000	150,000	
20周年記念大会開催	220,000	227,100	
予備費	782,227	0	
計	2,402,227	1,465,235	
次年度繰越金		1,041,675	

2003 年度予算

<< 収入 >>

項目	予算	備考
入会金	12,000	6人分
学会費	1,125,000	一般185人分 学生50人分
広告収入	45,000	
雑収入	20,000	複写収入等
年報販売	113,700	学会事務センター 総由45冊 直報販売15冊 会員誌販売15冊
繰越金	1,041,675	
計	2,357,375	

<< 支出 >>

項目	予算	備考
消耗品費	50,000	文具、封筒等
通信費	250,000	
ニュース印刷費	80,000	350部×3回
年報印刷費	300,000	500部
報告要旨集印刷費	70,000	350部
名簿印刷費	70,000	350部
大会開催費	120,000	
役員・委員会費	130,000	委員交通費を含む
事務局費	300,000	事務員手当、机代を含む
編集事務局費	150,000	通費、事務員手当を含む
予備費	787,375	学会費及び記念品代を含む
計	2,357,375	

2003 年度臨時総会の記録

大会2日目の9月7日(日)に臨時総会が開かれ、第1回および第2回の新理事会で協議された内容について、以下のとおりの報告・提案があり、いずれも異議なく承認されました。

1. 新体制における理事の役割分担について

松本康会長より、玉野和志(庶務担当)、渡戸一郎(編集担当)、田中重好(企画担当)の各理事が常任理事に、また後藤範章会員が事務局担当理事にそれぞれ指名され、その他次のとおり説明がありました。

【企画委員会】	委員長：田中重好常任理事	担当理事：園部雅久理事
【編集委員会】	委員長：渡戸一郎常任理事	担当理事：浦野正樹理事
【国際交流委員会】	委員長：稲月正理事	

2. 各種委員会の構成について

松本会長より、次のとおり説明がありました。

【企画委員会】(五十音順)

(留任) 稲月正会員(理事兼任)、高木恒一会員、野沢慎司会員、水上徹男会員、山本かほり会員
(新任) 浅川達人会員、有末賢会員(理事兼任)、飯田俊郎会員、園部雅久会員(担当理事)
田中重好会員(委員長)、谷富夫会員 新任委員をもう一名検討中

【編集委員会】(五十音順)

(留任) 西田芳正会員、西村雄郎会員、渡戸一郎会員(委員長)
(新任) 浦野正樹会員(理事兼任)、江上渉会員(監査兼任)、田嶋淳子会員、西澤晃彦会員、山下祐介会員

【国際交流委員会】(五十音順)

稲月正会員(委員長) 新任委員は現在検討中

3. 江上監査の編集委員就任について

松本会長より、来年度より年報の外部委託を開始するにあたり、現在の年報編集出版体制立ち上げの経験者であること、金銭を扱う仕事ではないことから、江上監査の編集委員就任について理解を求めました。

4. 来年度の日程について

松本会長より、来年度の第22回大会の開催日を、9月4日(土)・5日(日)とすることが説明されました。

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員の方には、学会費納入用の振込用紙を本ニュースと同封してお送りいたしましたので、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。なお、前年度(2002年度)までの学会費が未納となっている会員の方には『年報』をお送りできませんので、御了承下さい(事務局が学会費納入を確認し次第追って年報をお送りいたします)。また、継続して5年以上会費を滞納している会員の方は、2003年度中に滞納分の会費を納入していただけない場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので、ご注意ください。

2. 第22回大会開催について

第22回大会は、2004年9月4日(土)・5日(日)に大阪市立大学にて開催されることが、第21回大会の総会および臨時総会で決定されました。

3. 理事会報告

(1)2002-2003年度第3回理事会報告

9月5日(金)15:00より、第3回理事会が成蹊大学で開催されました。本理事会では、『年報』の編集業務委託の件や『リーディングス 海外の都市社会学』(仮題)の企画進行経過、事務局移転の件など、第21回大会時の総会に諮る諸事項について審議が行われました。なお、この中で、第3回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)として園部雅久会員の『現代大都市社会論』が最もふさわしい旨、学会賞選考委員会より報告があり、満場一致で学会賞受賞作品として承認・決定されました。具体的な内容につきましては本ニュース掲載の総会記録をご覧ください。

(2)2003-2004年度第1回・第2回理事会報告

9月6日(土)17:00および9月7日(日)10:30より、今年度の臨時総会で提案する事項についての審議がされました。詳細については上掲「2003年度臨時総会の報告」をご覧ください。

4. 来年度以降の自由報告要旨集の変更について

これまで、日本都市社会学会では、『自由報告要旨集』を大会時に発行して、大会参加者に配布すると同時に、大会に参加されなかった会員には後日郵送するようになっています。しかしこの方式では、経費（印刷費や郵送費など）がかさむこと、報告内容を大会に先だてて会員に伝えられないなどといった問題点が付いて回ります。そこで、理事会並びに企画委員会でその改善策について協議した結果、来年度からは、報告要旨を大会前に発行する学会ニュースに入れ込んで全会員に事前にお送りすることになりました。つまり、関東社会学会や村落研究学会、地域社会学会などで採用している方式に改める、ということです。

この結果、例年、5月上旬発行の学会ニュースで、自由報告申し込み（6月10日締め切り）と報告要旨集用原稿提出（7月15日締め切り）の案内を掲載しておりましたが、今後は、7月下旬に発行のニュースに報告要旨を掲載するために、それぞれの締め切りを少なくとも1ヶ月ほど前倒ししなければならなくなります。また、従来の報告要旨集には、1報告につきB5サイズで2頁分の要旨を掲載してきましたが、原稿の分量も縮約する方向で検討されることになろうかと思えます。

詳細につきましては、最終的な決定を経て、ニュースでお伝え致しますが、会員の皆様には今からご承知置きいただきたくお願い致します。

5. 出版・刊行された著書等に関する調査結果について

昨年末から今年はじめにかけて皆様にご協力いただきました「2001年1月～2002年12月に出版・刊行された著書等に関する調査」の結果を巻末に掲載しましたので、ご覧ください。

編集委員会からのお知らせ

編集委員会事務局の移転について

総会記録にもありますように、新体制の編集委員会の発足にともない、編集委員会事務局を大阪市立大学の谷研究室から明星(めいせい)大学の渡戸研究室へ移転することになりました。また、次号より執筆者から完全原稿が提出されて以後の作業をハーベスト社に業務委託することになり、その分、原稿や校正の締切りが厳しくなると思われませんが、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲して編集事務を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。新編集委員会事務局の住所は下記のとおりです。投稿先の宛名も下記の住所に変更になりますので、ご注意ください。

〒191-8506
東京都日野市程久保2-1-1
明星大学 人文学部 人間社会学科 渡戸研究室 気付
日本都市社会学会編集委員会事務局
電話・FAX 042-591-9238 (渡戸研究室直通)
e-mail watado@soci.meisei-u.ac.jp

『日本都市社会学会年報』22号（2004年発行）自由投稿論文および研究ノートの募集について

すでにお知らせのとおり、編集委員会では年報22号に掲載する「自由投稿論文」および「研究ノート」を募集しています。投稿を希望される会員の方は、『年報』21号（2002年発行）に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2003年11月末までに上記の新しい編集委員会事務局（明星大学渡戸研究室）までお送り下さい。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。

（常任理事 渡戸一郎）

学会事務局より

学会事務局の移転について

今期（2003年度大会～2005年度大会までの2年間）、学会事務局を日本大学文理学部社会学科・後藤研究室でお引き受けすることになりました。9月末現在、引き継ぎも大方完了しつつありますが、何分不慣れなものですから、会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思えます。事務局幹事の松橋・楊両氏と共に、2年後に次の事務局にバトンタッチできますように、業務内容の見直し・スリム化を図りつつ、責任をしっかりと果たしたいと思っております。

なお、私の研究室の電話がダイヤルインではないことと学科内の事情もありまして、ニュースのトップには電話番号を記載しておりません。誠に恐縮ですが、お問い合わせにはFaxかE-mailをお願いできれば幸いです。

これからの2年間、会員の皆様とは接点を最も多く持たせていただくことになるはずですので、ご協力とご指導のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

（事務局担当理事 後藤範章）

第21回大会も多数のご参加をいただき、成功裡に終わることができました。江上渉先生をはじめ成蹊大学の皆さま、森岡前会長をはじめ学会の役員・委員の皆さまのご尽力に心から感謝いたします。

『日本都市社会学会年報21 隣接領域からの批判と期待』および『第21回大会自由報告要旨集』を大会当日に配布いたしました。大会に参加されなかった会員で会費納入済みの方々には両方とも、会費未納の方々には報告要旨のみを同封いたしました。また、前事務局が作成された新しい会員名簿も同封いたしました。ご確認ください。

学会ニュースの版型をB5からA4に改めました。余白ページをなくして（8頁だてを基本として）印刷費を軽減する目論見であり、また来年度の大会報告要旨のニュースへの掲載をにらんでの措置でもあります。

前期の学会事務局並びに編集委員会事務局を支えてこられた小山雄一郎会員（東京都立大学）や二階堂裕子会員（大阪市立大学）をはじめとする関係者の皆さま、誠にお疲れさまでした。

2001年1月～2002年12月に出版・刊行された著書等に関する調査結果

氏名(所属)	単著・共著・編著	書名	出版社名
秋元 律郎(大妻女子大学)	単著	現代都市とエスニシティ シカゴ社会学をめぐって	早稲田大学出版部
有里 典三(創価大学)	編著	ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む	ハーベスト社
有末 賢(慶應義塾大学)	編著	都市民俗生活誌	明石書店
江上 涉(成蹊大学)	編著	21世紀の都市社会学	学文社
小川 全夫(九州大学)	編著	ニューエイジング 日米の挑戦と課題	九州大学出版会
同上	編著	家族・福祉社会学の現在	ミネルヴァ書房
奥田 道大(中央大学)	編著	ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む	ハーベスト社
同上	編著	エスノボリス・新宿/池袋	ハーベスト社
大坪 省三(東洋大学)	編著	福祉社会を創る 社会人学生たちの挑戦	学文社
大谷 信介(関西学院大学)	編著	これでいいのか市民意識調査 大阪府44市町村の実態が語る課題と	ミネルヴァ書房
金子 勇(北海道大学)	編著	講座社会変動8 高齢化と少子社会	ミネルヴァ書房
同上	編著	社会福祉調査論	中央法規出版
同上	編著	都市化とコミュニティの社会学	ミネルヴァ書房
菊池美代志(帝京大学)	編著	21世紀の都市社会学	学文社
木下 謙台(筑紫女学園大学)	編著	地域社会学の現在	ミネルヴァ書房
同上	編著	家族・福祉社会学の現在	ミネルヴァ書房
小坂 勝昭(文教大学)	編著	離島「隠岐」の社会変動と文化	御祭の水書房
今野 裕昭(宇都宮大学)	単著	インナーシティのコミュニティ形成 神戸市真野新住民のまちづくり	東信堂
同上	共著	都市機能の高度化と地域中心 八戸市の 開発 と場所の個性	東北大学出版会
同上	共著	戦後日本の経済社会	創風社
篠原 隆弘(鹿児島大学)	編著	地域社会学の現在	ミネルヴァ書房
鈴木久美子	編著	エスノボリス・新宿/池袋	ハーベスト社
鈴木 広(久留米大学)	編著(監修)	地域社会学の現在	ミネルヴァ書房
同上	編著(監修)	家族・福祉社会学の現在	ミネルヴァ書房
同上	編著(監修)	福祉社会学の現在	ミネルヴァ書房
園部 雅久(上智大学)	単著	現代大都市社会論 分極化する都市?	東信堂
高橋 英博(宮城学院女子大学)	共著	都市機能の高度化と地域中心 八戸市の 開発 と場所の個性	東北大学出版会
高橋 勇悦(大妻女子大学)	編著	21世紀の都市社会学	学文社
同上	編著	生きかゝる社会学 高齢社会における幸福とは何か	弘文堂
武田 尚子(武蔵大学)	単著	マニラへ渡った神戸内漁民 移民送出母村の変容	御祭の水書房
谷 富夫(大阪市立大学)	編著	民族間関係における結合と分離	ミネルヴァ書房
内藤 辰美(日本女子大学)	単著	市民文化と地方都市 自立的な地方社会の可能性	恒星社厚生閣
同上	単著	地域再生の思想と方法 コミュニティとリージョナリズムの社会学	恒星社厚生閣
西山八重子(金城学院大学)	単著	イギリス田園都市の社会学	ミネルヴァ書房
早川 洋行(滋賀大学)	単著	流言の社会学 形式社会学からの接近	青弓社
古山 知己(兵庫県立鈴蘭台西高校)	単著	日本の企業と同和問題	明石書店
三浦 典子(山口大学)	編著	地域社会学の現在	ミネルヴァ書房
三隅 一人(九州大学)	編著	福祉社会学の現在	ミネルヴァ書房
森岡 清志(東京都立大学)	編著	パーソナルネットワークの構造と変容	東京都立大学出版会
同上	編著	都市化とコミュニティの社会学	ミネルヴァ書房
山下 祐介(弘前大学)	共著	震災ボランティアの社会学	ミネルヴァ書房
山本 剛郎(関西学院大学)	単著	地域生活の社会学	関西学院大学出版会
吉原 直樹(東北大学)	単著	都市とモダニティの理論	東京大学出版会
渡戸 一郎(明星大学)	編著	多文化教育を拓く マルチカルチュラルな日本の現実の中で	明石書店
同上	編著	21世紀日本の外国人・移民政務 当面の緊急課題に関する提言と新たな社会統合政策の必要性	市民協調